



135
2025春

にってん フォーラム

高田馬場^{いち にーさん しっ!}1-23-4 ———— 長岡英司

2025 年度事業計画のご紹介 ———— 立花明彦

川崎市視覚障害者情報文化センターだより

退任のご挨拶 ———— 杉山雅章

就任のご挨拶 ———— 内藤 牧

シリーズ 点字で生きる～点字制定 200 年～

思いを新たに ———— 佐木理人

現場の小窓 ———— 岩渕百世

生誕110年記念特別連載

創立者本間一夫の生涯①増毛から

私と日点 ———— 真本泰成

にってんゲームを楽しむ会が数年ぶりに復活！

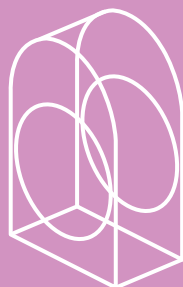
————— 村尾正豊

にってんワークショップ開催報告 ———— 田最上あずさ

明日につながる支援の力

ご存知ですか？こんな商品

チャリティコンサートのご案内

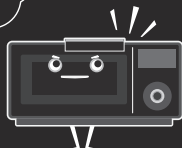


ISSN 0916-8877

らく楽アシスト

音声で、 あなたをアシスト。

あたため
がんばります。



レンジグリル

18時30分に
炊き上がります。



ジャー炊飯器

調理中はそばを
離れないください。



IHクッキングヒーター

お風呂の栓は
しましたか？



エコキュート

らく楽アシスト

検索

[https://www.mitsubishielectric.co.jp/
home/shiawase-share/rakuraku/](https://www.mitsubishielectric.co.jp/home/shiawase-share/rakuraku/)



三菱電機株式会社

〒100-8310 東京都千代田区丸の内2丁目7番3号(東京ビル)

●三菱電機お客さま相談センター

家電品の購入相談・取扱い方法

フリーダイヤル

いつもサンキュー 365日



0120-139-365 (無料)

(受付時間 365日 24時間)

フリーダイヤル



FAX 0120-365-088 (無料)

フリーダイヤルをお使いいただけない場合は

TEL 03-3414-9655 FAX 03-3413-4049 (有料)

■ご相談対応

平日

9:00 ~ 19:00

土・日・祝・弊社休日

9:00 ~ 17:00

左記以外の時間は
受付のみ可能です。

*電話番号は変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。
*電話番号をお確かめのうえ、お間違えのないようおかけください。

触れて読む図

ながおか ひでし
理事長 長岡 英司

視覚障害者が情報を得るのに触覚が有効であることは、疑いの余地がありません。点字はそれを代表する例です。近年は情報の障壁をなくすという考えの広がりから、点字に加えて、図形、地図、画像などの触れて読む図が様々に使われるようになりました。そのような図を「触図」と呼びます。点字と同様の凸点で描いた触図を「点図」と呼ぶこともあります。駅や公共施設にある触知案内板は触図の例です。教科書などの点字の書籍にも触図が掲載されています。

触図をテーマに開かれたシンポジウムで紹介するために、当館と触図の関りについて調べました。当館で点訳書に初めて触図が掲載されたのは、点訳者の^{ごとうりょういち}後藤 良一氏による 1956（昭和 31）年のことでした。その後、触図を作成するための体制の整備が徐々に進みます。1964 年には米国製の加熱真空コピー機・サーモフォームを国内で初めて導入しました。信州大学などが 1980 年に開発した、加熱発泡素材を用いる立体コピーシステムも、いち早く使い始めました。一方、触図作成ノウハウの普及を図るために、1986 年の『点訳のための触図入門』などの関連書籍を発行しました。さらに、触図に使う触知記号を国内で統一するための国の取り組みにも、協力を続けてきました。

パソコンでの点訳が普及してからは、点図作成ソフトが使われるようになりました。画面上で描いた点図を点図プリンタで打ち出します。しかし現在でも、印刷用の金属板やビニール板に点図を手作業で打つことも行われています。パソコンが使われるようになって、触図の作成は簡単ではありません。触覚では込み入った部分の読み取りが難しく、しかも全体を瞬時に把握できないなど、目視に比べて困難が多いため、触図の作成では、適切な省略や強調、点字での説明の付加などの工夫が欠かせないからです。図案の作成に始まり、修正と触覚での確認を何度も繰り返しながら、作業は慎重に進められます。

そのようにして作られた触図に、ぜひ触れてみていただきたいものです。

2025年度事業計画のご紹介

たちばな あけひこ
館長 立花 明彦

「新しいことが始まる年になる」と言われる巳年、世界がこれに呼応するかのように動いています。とりわけ指導者の交代があった大国の動きは激しく、その内容は世界の政治や経済、国際関係に大きな影響を与えるだけに気になります。中でもマイノリティの人々がかかえる様々な格差を是正しようとするD E I（多様性、公正性、包摂性）の取り組みが推進されてきましたが、ここ数年、保守系活動家らから「逆差別」というパッシングが起き、D E Iの取り組みを急激に後退させていて気がかりな状況にあります。反D E Iの姿勢を鮮明にした政権はこれから何をし、何が起こるのか？日本も「他国でこうなったのだから」とマイノリティの権利保障が反動にさらされる可能性はあり、対岸の火事ではいられません。なぜならば、そうした世論が増幅し大きくなると公的機関からの予算措置が縮小され、併せて支援者の数も減少していくと推測され、それに伴って当法人の財政も一気に今以上の厳しい状況に追い込まれるからです。このため、以前から問題提起され、その都度検討していた財政基盤の安定化について、改めて今年度の重点課題の一つに組み入れました。これに加え、当法人の存在と活動を社会に発信し、今日、視覚障害者が置かれている実態を伝えて、理解と協力を求めることも欠かせません。本年は、ルイ・ブライユが六点式点字を考案して200年に当たると同時に、当館の創立者である本間一夫生誕110年です。この機会を生かし、一層の広報に努め、支援くださる方々の拡大に努めてまいります。

読書バリアフリーを巡っては、2023年7月、第169回芥川賞を重度障害のある作家・市川沙央氏が受賞し、記者会見で読書バリアフリーを訴えたことを機に潮目が変わり、障壁除去の必要性が社会的に認識され始めたようにみえます。2024年4月の文芸3団体による読書バリアフリー施策についての共同声明、6月の出版関連5団体による共同声明などはその主なるところであり、画期的とも言えます。こうした中で国に策定義務が課せられている読書バリアフリー基本計画の第2期がスタートします。盛り上がりつつあるこの機会を好機

と捉え、図書製作の安定化を図るための行動も前進させたく、重点課題に挙げました。ここでは、紙数の都合から三つの課題をご紹介します。

1. 第2期読書バリアフリー基本計画での実証調査への積極的協力

本年4月から始動する読書バリアフリー計画において国は、特定書籍・特定電子書籍等の製作の支援に当たって製作者への電磁的記録の提供に関する課題や具体的方法について、主導して実証調査を実施することになっています。その調査では、当館は協力館の依頼を受けていますが、出版社から電磁的記録（電子データ）の提供がなされることは、点字・DAISY図書等の製作やプライベートサービスにおいて効率化をもたらし、製作期間の短縮が図られる可能性があり、当館としても期待を寄せているところです。今後の図書製作のあり方を左右するものともなるだけに、体制を整え、今後を見極める材料を得るべく協力します。

2. 図書製作等における生成AI活用の可能性についての実証的検討

生成AIの活用が各所で進められており、当館も注目しています。とりわけ、図書製作・プライベートサービスの現場では、製作協力者の確保が困難になっている実態があり、AIを用いることで製作にかかる省力化と効率化を進め、協力者が減少しつつある中でも製作数を一定数維持できる仕組みを作ることが求められています。2024年度においては、DAISY図書の製作現場で無料版のAIを用い、図表処理での原稿化やOCRと連動させての文字変換の制度などを検証し、一定の知見を得たので、これを有料版に切り替えて対象を拡大するなど、掘り下げた検討を展開します。

3. 本間一夫生誕110年記念事業の実施

点字に出会い、それを習得したことで道が開かれ、点字によって生かされた本間一夫と当館について、これまで収集した資料を基に未発表の事項をまとめ、記念誌を作成し、当館の広報に活用します。また点字文化を守り、創造し、継承する役割を担う点字図書館として、本誌『にってんフォーラム』でも関連する短期連載を組みます。これらを通して当館の一層の理解と支援に努めてまいります。

改めて、当館への変わらぬご指導とご支援をお願い申し上げます。

川崎市視覚障害者情報文化センターだより

退任のご挨拶

前センター長 すぎやま まさあき 杉山 雅章

センター長として8年間務めてまいりましたが、この3月末をもって退職し、4月からは内藤牧副センター長が新たにセンター長に就任いたしました。これを機に、これまでの歩みを少し振り返ってみたいと思います。

大学卒業後、約10年間にわたり自動車部品の開発・設計業務に従事していましたが、福祉の仕事に携わりたいという思いが募り、1991年7月、34歳のときに縁あって日本点字図書館に入職しました。最初に配属されたのは、視覚障害者用具を扱う部署でした。商品を



販売する業務ですので、お客様からお叱りを受けることもありましたが、視力の低下に不安を抱える方々に用具を通じて少しでも安心感や希望を届けられることに、やりがいを感じました。皆さんの日常生活の不便を少しでも解消したいという思いから、生活雑貨店で便利そうな商品を探したり、メーカーに依頼して特注品を製作してもらったり、自ら独自の商品を開発したりもしました。

その後、いくつかの部署を経験し、館長を2年務めた後、60歳で当センターに赴任しました。このセンターは市民サービスを提供する地域の施設です。実際に働き始めてみると、想像以上に利用者に寄り添ったサービスを提供しており、その姿勢に新鮮な驚きを覚えました。「このセンターの根底には何があるのだろう」と考えていたとき、ある眼科医の先生の講演で、「視覚障害リハビリテーションのゴールは、当事者の方に自信を持っていただき、笑顔を取り戻していただくことです」という言葉に出会いました。それこそが、このセンターが目指しているものだと思感しました。

この職場の根底には、「お客様を笑顔にしたい」という思いが流れています。職員一人ひとりが同じ方向を向き、それぞれのアイデアや思いを形にすることで、多くの利用者の方々の笑顔につながっているのだと思います。このようなセンターでの8年間は、私にとって非常に充実した時間でした。4月から私はセンターを離れますが、その精神はこれからも変わることなく受け継がれていくと思います。職員それぞれが、利用者のニーズに応えるべく尽力してくれると確信しています。

これからはセンターの応援者として、その歩みを温かく見守っていきたいと思います。

川崎市視覚障害者情報文化センターだより

就任のご挨拶

センター長 ないとう まき
内藤 牧

このたび、川崎市視覚障害者情報文化センターのセンター長に就任いたしました。

2024年3月に定年退職を迎え、同年5月から川崎勤務となりました。それまでに何度もセンターに来たことはありましたが、駅から最短経路で移動していただけたことから、まずは新天地川崎を知ることから始めました。

川崎駅周辺は想像以上に活気があり、大きなショッピングセンターや立派なコンサートホール、能楽堂や水族館などがあります。西口に出るとタワーマンションがそびえたち、東口から京急川崎方向にはディープな繁華街が存在感を放ち、なかなか興味深い街です。少し離れた場所には厄除けのお参りで知られる川崎大師が鎮座し、その門前には多くの参拝客で賑わう「仲見世通り」があり、駅前周辺とは違った雰囲気を楽しむことができます。こうして実際に歩いてみることは、新参者にとって大事な一歩でした。

そして仕事については、日常業務やイベントなどを通して、いろいろな側面から地域の視覚障害者支援を学ばせていただきました。利用者のみなさんとの距離が近いことや、地域の医療機関や関連施設との連携を大事にしていること、地域のボランティアグループとの協力体制がしっかりしていることなど、これらの大事な要素がしっかりと仕事のベースに根付いています。また、ひとつの事務室にみんなが机を並べていますから、お互いの仕事をうまくフォローしながら動いていることも当センターの良いところです。

さて、ここで2年目を迎えたわけですが、センター長としては行き届かないことが多々あると思っています。足りないところはいろいろな方から助言をいただき、これまで築いてきたセンターの役割を、少しでも良いものにして次につなげられるように仕事に向き合って参ります。

前任者が退任のご挨拶で書いておりますが、「お客様を笑顔にしたい」という思いを継承し、スタッフ一同、力を合わせて新しい年度をスタートすることにいたします。



日本点字図書館は、指定管理者として、川崎市視覚障害者情報文化センターを運営しています。

シリーズ 点字で生きる～点字制定200年～

思いを新たに

毎日新聞論説委員 兼「点字毎日」編集次長（専門記者） さ き あや と 佐木 理人

生まれつきの弱視だった私が、点字を使い始めたのは、中学生の時です。この頃、急に視力が落ち、墨字の読み書きができなくなりました。週に一度、学校が終わってから日本ライトハウスで点字を習いました。

読書の魅力に初めて触れたのは、点字を読む練習で使われた星新一さんの「ショートショート」です。6つの点の組み合わせで表す点字の面白さを実感したのは、私の苗字「さき」を点字で書き、上下逆さにしても「さき」になると知った時でした。

今の私にとって、点字はなくてはならない存在になっています。その有用性を痛感するのは、まず記事を執筆する時です。原稿を音声パソコンでざっと書き、点訳した後、指で読み返ししながら推敲します。文の乱れに気づいたり、良い表現を思いついたりすることはしばしばです。

取材でメモをする時も点字は大活躍します。インタビューでは、点字情報端末に保存しておいた項目を指で追いつつ質問し、答えを書き留めていきます。人前で話す時も、点字は欠かせません。メモを指でたどりながら、聞き手に顔をまっすぐ向けて話せるのはありがたいです。

街中で点字を見つけると、ほっとします。特に助かるのは、駅のホームにつながる階段の手すりにある電車の行き先やトイレの水洗ボタンの「ながす」といった点字表示です。

少なくとも世界の130余りの言語に対応しているとみられる点字が、全盲のフランス人、ルイ・ブライユによって考え出されたことは、私たち点字使用者にとって、とても心強い偉業です。更に、日本語点字が、東京盲啞学校の教諭・いしかわくらじ石川倉次と視覚障害生徒らによって検討を重ね翻案されたことは、見える、見えないを越えた力の結集の成果です。

点字が考案されて今年で200年。100年余りにわたり発行を続けている点字の週刊新聞「点字毎日」に関わる身として、確かで有用な情報を分かりやすく伝えなくてはとの思いを新たにしています。

業務を通じて伝えたいエピソード

いわぶち もも よ
図書情報課 岩渕 百世

1958（昭和 33）年から開始した録音図書の貸出は 70 年以上の時を経て、その記録媒体もオープンリールテープからカセットテープ、そして C D へと変化しました。

振り返ると 1976（昭和 51）年にカセットテープでの貸出が始まり、1988（昭和 63）年にオープンリールテープでの貸出が終了。1999（平成 11）年にデジ図書の貸出が開始され、2011（平成 23）年にカセットテープの貸出が終了しました。

新しい媒体が出てもしばらくは、これまでの媒体と並行して貸出を続け、新しい再生機を紹介したり、従来の媒体の貸出は終了することを繰り返し案内したり、完全移行までに数年の歳月を費やしました。

現在では、カセットテープの実物を見たことがない若者もいるようで、当館の職員もしかり。オープンリールテープにいたってはもはや化石状態です。

貸出サービスなどの利用者は 70 代が最も多く、次いで 80 代、60 代となっています。オープンリールテープの巻き戻しに苦労された方も少なくないと思います。カセットテープ、C D と形態が変わってもなお利用し続けてくださるのは、本を読みたいという熱い思いがあったこそだと感じています。

現在の貸出ではダウンロードサービスが大変好評です。これは、サピエ図書館に保管されている点字図書・録音図書を S D カード等に当館職員が代行してダウンロードするサービスで、ネットワークに自身で接続できない方が対象となります。

この場合、録音図書は 1 回の申し込みで 10 タイトルのデータをダウンロードできます。C D が 10 枚も家にあると場所を取りますし、聞き終わったら次の C D を入れ替える手間もあります。しかし、S D カードではそうしたことが不要ですし、なにより返却期限を気にしなくていいという声をいただいています。

最近ではスマートフォンによる読書も可能で、高齢でも新しいものに果敢にチャレンジする利用者も大勢います。そんな利用者からの質問に、スタッフは的確に答えるべく知識の習得に挑み続ける毎日です。

生誕110年記念特別連載◎創立者本間一夫の生涯①

増毛から

本間一夫記念室

当館創立者本間一夫は、1915（大正4）年10月7日、北海道で生まれた。

札幌から、日本海岸沿いに車で北上すること約2時間、増毛郡増毛町がある。町の中心、漁港の近くにある旧増毛駅は、かつてはJR北海道・留萌本線の終着駅であったが、2016年の部分廃線で今は最盛期を模して修復した駅舎とホーム、単線線路だけが残っている。かつては高倉健主演の映画「駅 STATION」の舞台にもなった。港では日本海で獲れる甘海老、ホタテ、ウニなどが水揚げされ、日本二百名山にも挙げられている暑寒別岳の裾野にある果樹園では、リンゴ、サクランボなどが収穫される自然豊かな町のには、日本最北の酒蔵「国稀酒造」がある。一夫は、蔵の創業者・本間泰蔵の孫としてこの町に生まれた。

祖父泰蔵は起業家として非凡な才能を持った人物で、今では北海道版道德教材小学校高学年用に「人々に愛された豪商」のタイトルで紹介されている。

生まれは1849（嘉永2）年新潟県佐渡。23歳で江戸期から佐渡とは北前船で繋がっている小樽に渡り呉服商に勤めるが、店が廃業。在庫を引取り、1875



生家は町に寄贈、重要文化財に指定された。「旧商家丸一本間家」という名称で見学もできる

(明治8)年増毛に店を開いて商いを始めた。増毛は古くからニシン漁が盛んで、北海道では片田舎ではあるが町は賑わい、店は繁盛。10年もせずに荒物屋、酒造業を始める。その後ニシン漁にも進出、網元となり海運業にも事業を拡大した。そんな中、娘千代に一夫が生まれる。泰蔵には、上から泰輔、千代、泰一と3人の子供がいるが、泰輔には子供がおらず泰一は当時未婚であったため、泰蔵の初孫であった。



一夫の父は小樽から婿入りした内山 述 作。述作は伯父に勲三等貴族院議員の金子元三郎、兄が留萌郡鬼鹿(現小平町)の大家花田家に養子入りした勝四郎といった家柄で、本間家もそれらに連なる婚姻であった。しかし一夫出産後1年余の1916(大正5)年12月19日に、千代は結核のため、療養先の鎌倉市腰越にある鈴木療養所(現鈴木病院)で他界した。結婚前から結核に感染していたことを隠し、千代にうつしたであろうと泰蔵は激怒し述作を離縁した。その後一夫は、伯父泰輔・キミ夫妻に実の子のように育てられる。

その養母キミであるが、松前藩家老職の家柄である武家、下国家に生まれた。幕末から維新にかけて活躍し歴史に名を残す下国崇教(安芸)の曾孫にあたる。1891(明治24)年に生まれ、1909(明治42)年北海道庁立函館高等女学校を



丸一本間合名会社の幹部 中央が泰蔵、その右の幼児が一夫

第1期生として卒業。翌年本間家に嫁ぐ。本間家は満艦飾の持ち船「太刀丸」で函館まで花嫁を迎えに行き、増毛では4日間5回の披露宴が行われた。このキミが後に本間家を支え、また当館を支えることになる。

祖父、養父母の愛情に育まれ一夫はすくすくと成長するが、5歳の冬、1920（大正9）年12月12日、外で雪遊びをしていた時、頭痛に見舞われ発熱した。医者と呼ばれ診断の結果脳膜炎（髄膜炎）と診断される。数日後高熱が下がり、食欲も出たが、眼の見え方がおかしいと本人も周りも気づいた。うすぼんやりとしか見えず、年が明けてもいっこうに快復する兆しがなく大きな病院で診てもらおうと、1月28日小樽の鎌倉病院に入院する。増毛からキミ、ばあやのタミ、他3人と共に船で小樽に渡ったわけだが、一夫はこの時が故郷を見た最後となり、夕日を見たのも覚えている。翌々日の30日、病院から泰蔵に診断結果が届く。泰蔵の手帳の記録によると「視神経炎 脳底ノ疾患ニテ視神経床ノ故障波及シタルモノラシ」とある。

治療しても視力はいっこうに快復せず、養父母は一夫を東京の医者に診せるため、家業を泰蔵に任せ、タミを伴って4月12日に上京した。始め3か月間は日本橋の旅館「いか屋」に宿泊していたが、その後中野に家を借りた。目的の医者は、当時東京帝国大学医学部眼科学教室主任教授でのちに日本近代眼科の父と称される河本^{かわもと}重次郎^{じゅうじろう}。大学で教鞭を執りながら麹町富士見町にて河本眼科病院を開院していた。中野から当時の牛込^{うしごめ}駅まで国鉄に乗り、駅から徒歩で医院まで通った。

中野の仮寓生活は2年に及び、その間河本眼科病院以外にも名医と聞けば方々の眼科医を訪ねたが、快復の兆しがなく、ついに1923（大正12）年4月北海道に引き上げた。一夫は7歳。関東大震災の5ヶ月前だった。

（つづく）

（本連載では、新資料により既刊の本間一夫の伝記内容から一部改めて記述しています）



中野にて。キミに抱かれる一夫、右・泰輔



私と日点

.....
しんもと やすなり
利用者 真本 泰成

日本点字図書館との関わりはすでに20年、私も失明して同じ年数が過ぎた。

私は55歳のときに失明した。それまでの経歴は誇れるものではない成り行き任せのものだった。ただ読書量はかなりのもので、学生時代は「あの本、この著者の著作を読んだ」と仲間に誇示したが、内容は十分に理解していなかった。今は、ゆっくりと味わいながら、それでも多量の本を読み、認知症との戦いのうちに読書している。

失明した当初は、図書が読めなくなるのではと心配していたが録音図書があった。そのうえ視覚障害者に関わった先輩達の残した膨大な遺産があり、幸運であるとしか言いようがない。その遺産と私をつなげてくれるのがレファレンスである。日点開館日はほとんど毎日のように電話をし、ことによると2度3度と電話をすることもある。

私の生活は録音図書が中心である。リクエストした録音図書を数日後に郵便受けに見つけるのはうれしい。私の独居生活が引きこもりではないことの証と思えるように録音図書がそこにある。録音図書は、読書の窓を開かせてくれるだけでなく、社会の窓さえ開いてくれる。電話一つで社会の信頼の連鎖が起動して運ばれた録音図書、社会の安全が奇跡のようにありがたい。

全盲の弁護士^{おおこだ}大胡田さんはスマホを自由に利用し、あらゆる情報を出して見せ、私にも勧める。スマホには、情報はあがるが、人間的な信頼の連鎖がないし、それを必要としないのかもしれない。

失明して初めて漢字表記の巧妙さや面白さに気が付いた。しかも失明の故にその漢字表記に触れる機会がなくなったので、録音図書での音声漢字に付いてゆけない。スマホの漢字表記も視覚優位で、私の記憶を揺すぶることはない。そこで日点レファレンスの出番となる。日点の情報には人間的ゆとりがあり、漢字書き取りにも付き合ってくれる。日点への電話は単なる図書情報だけでなく、人間的つながりや信頼の連鎖を求めていることでもあると気づかされる。私の生活には日点がしっかりと組み込まれている、あなたの傍らにスマホがあるように。

にってんゲームを楽しむ会が数年ぶりに復活！

用具事業課長 むら お まさとよ
村尾 正豊

「にってんゲームを楽しむ会」をご存じでしょうか。

当館を会場として視覚障害のある方と一緒にアナログゲームを楽しむ会として、約 40 年前から続いている歴史ある集まりです。

この会の講師は元小学校の教師であり、現在はアナログゲーム研究家として活動している草場 くさば じゅん 純先生です。草場先生は、ゲームを通じたコミュニケーションを大切に伝え続けており、初心者から経験者まで、誰もが楽しめる工夫を凝らして指導してくださっています。ゲーム会に使用するカード類には点字で数字や色を書いたシールを貼るなど工夫して行っています。

2 ヶ月に 1 回偶数月の第 1 土曜日に定期的に行っていましたが、2019 年以降、新型コロナウイルスの影響で活動を中止しました。長年続いてきたこの会も、一時は再開の見通しが立たない状態でしたが、2024 年 10 月にようやく再開いたしました。数年ぶりの開催となり、懐かしい顔ぶれが集まり、笑顔あふれる時間となりました。

毎年 12 月には、特別支援学校のお子様にもお声がけし、より多くの人に参加できる「クリスマスゲーム会」を開催しており、こちらも無事開催することができました。小さいお子さんから大人まで、カードゲーム、ブール、ビンゴなどを一緒に楽しみました。特に、初参加の方も多く、視覚障害のある方と晴眼者が自然に協力しながらゲームを進めている様子が印象的でした。久しぶりに大人、子供たちの声が響きわたりとても賑やかで楽しい時間を過ごせました。

「にってんゲームを楽しむ会」は、様々な人が気軽に参加できる場として、ゲームを通じた交流を広げていきます。偶数月の第 1 土曜日に開催しておりますので、ご興味のある方は、ぜひ一度ご参加ください。

にってんワークショップ開催報告

た も が み
図書情報課 田最上 あずさ

2月15日、にってんワークショップ「いっしょに楽しむ喫茶^{カフェ}にってん」を開催しました。今回は新しいテーマ『いっしょに楽しむ』を掲げた初の試みとなりました。目の見えない、見えにくい人と飲食店を利用する場面を想定し、会場をカフェに見立てた「喫茶にってん」をオープン。当日は7名の方にご参加いただきました。

プログラムは、計2回のカフェ体験と講義、終了後にグループ感想会を行いました。参加者にはペアを組んでいただき、ガイドをする人、ガイドを受ける人（視覚障害者役）の両方を体験していただきました。

最初は予備知識なしのカフェ体験です。入店から始まり、着席、メニュー選び、提供されたお菓子や飲み物の説明までを一連の流れで行いました。参加者は「難しい…」と呟きながらも、自分なりに工夫した声掛けやお菓자에触れながら種類を確かめる様子が見受けられました。

その後、講義形式で手引きの方法、メニュー説明のコツなどを紹介し、最後はいよいよ実践的なカフェ体験です。当館で自立支援の訓練を受けている皆さんにご協力いただき、参加者には実際に視覚障害者をガイドしていただきました。入店の際、足元にある段差の声掛けや講義で学んだ店内の説明、テーブルの上を時計の文字盤に見立てて位置を示すクロックポジションなどを使い、丁寧伝えていた姿がとても印象的でした。

体験を終えた後は、自分で選んだお菓子を食べながらのグループ感想会です。各テーブルを担当した職員も交えて行いました。「実際にお店で困ったことは？」「町で目の見えない、見えにくい人を見かけた時の声掛けは？」などの具体的な疑問から世間話まで様々な会話が飛び交い、終始賑やかな時間でした。

参加者からは「実践的、具体的な話が聞けてよかった」「何も知らない状態での体験から講義、最後は実際に目の見えない人と触れ合えてよかった」などの声をいただきました。

今回のワークショップのような体験を通して学べる機会や、参加者、訓練生、職員の垣根を越えて気軽に語り合える場が今後も増えていくとよいなと感じています。

◆ ◆ ◆ 明日につながる支援の力 ◆ ◆ ◆

このコーナーでは、当館をご支援くださっている団体・企業などをご紹介します。(総務部)

視覚障害関係資料室「奥村文庫」への資料のご寄贈

^{おくむら}奥村文庫は当館のサービスの一部門で、視覚障害に関する著述や、視覚障害者自身が著した活字資料を集め公開している専門資料室ですが、ここに資料をご寄贈くださる方々がいらっしゃいます。

1940年の創立以来、当館には視覚障害に関した書籍、新聞雑誌記事が蓄積されてきました。それを活かせないかと1978年から職員^{あきばひろこ}の秋葉博子を中心に有志が就業時間外に自主的に整理を開始し、1980年には館として正式に「資料室」と名付け閲覧サービスを開始しました。中には自費出版、非売品など貴重なものもあり、わが国唯一の視覚障害関係文庫として学生、大学教員、研究者などに情報を提供しております。

1990年代に当館利用者の奥村^{しげる}繁氏から多額の寄付をいただき、高価な資料や備品の購入、資料のデータベース化を行い、名称を「資料室」から「奥村文庫」に変更しました。今では図書10,486点、雑誌3,716点、記事30,185点(2025年3月末)を所蔵し、文化庁長官の認可を受け、複写サービスも可能な施設に指定されています。

一方、当館は民間の社会福祉法人で、皆様方のご寄付により支えられておりますが、運営資金は点字図書・録音図書の製作貸出という、視覚障害者への直接的なサービスに関わるものを優先しており、副次的なサービスへはなかなか資金を回せない実情があります。

そこで、出版される視覚障害関係の図書について、著者や出版社にご寄贈のお願いを出しており、趣旨に賛同され寄贈に快く応じてくださる著者、出版社がごぞいます。当事者に届くには少し離れた支援協力ではありますが、広く視覚障害福祉に貢献する貴重なご協力として感謝しております。



奥村文庫 <https://lib.nittento.or.jp/cs2/>

ご存知ですか?

こんな商品

わくわく用具ショップより、どなたが使っても便利な新商品をご紹介します。
ウェブショップからお買いものができます。ぜひご利用ください。

お問い合わせ 03-3209-0751

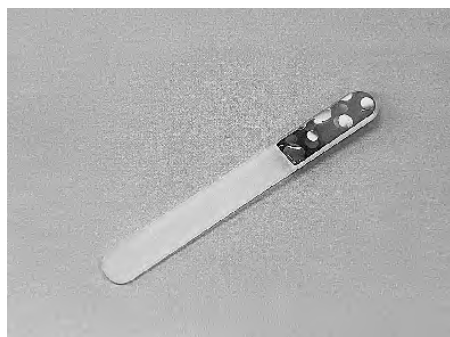
URL <https://yougu.nittento.or.jp/>

チェコ製ガラスつめヤスリ

【大きさ】(幅) 約 10 × (厚さ) 2 × (高さ) 90mm 【重さ】 7g (ケース含む)

【販売元】 サカエ・コーポレーション

【価格】 975 円 (税込み)



便利グッズの中でつめヤスリは人気のある商品のひとつです。

半月型や平たい棒状のステンレス製のつめヤスリを販売していますが、新たに「チェコ製ガラスつめヤスリ」が加わりました。

耐久性に優れていて、ヤスリ面がミクロン単位の細かさになっているので、爪へのあたりが優しく、なめらかに仕上がります。細かいながらも、驚くほど早く削れます。ネイルサロンで採用され、ギタリストにも愛用されるほどの実力で使用後は上質な仕上がりになります。

販売開始 1 ヶ月で 50 個以上販売し、次回入荷待ちとなるほどの人気商品です。

第23回本間一夫記念日本点字図書館 チャリティコンサートのご案内

毎年多くのご協力をいただいています当館のチャリティコンサートを今年は4名の豪華出演者をお迎えし開催いたします。

さわ かずき
澤 和樹（ヴィオラ）

国際的な演奏者で教育者。前東京藝術大学学長、同大および英国王立音楽院名誉教授。

さわ あき
澤 亜樹（ヴァイオリン）

ソリスト、室内楽、オーケストラゲスト首席奏者として幅広く活躍する。藝大フィルハーモニア管弦楽団コンサートマスター。

とば さくら
鳥羽咲音（チェロ）

ウィーン生まれの20歳。14歳で独奏会を開催し、以後国内外のオーケストラ、指揮者と共演。使用楽器はアンネ＝ゾフィー・ムター財団より貸与の1840年製J.B. ヴィヨーム。

すが た り か
菅田利佳（ピアノ / ゲスト出演）

外資系金融機関勤務の傍ら演奏活動に励み、昨年に澤和樹指揮のオーケストラで共演。澤氏もその実力を認める。東京大学総長大賞を全盲の学生として初受賞。

[日時] 2025年12月13日（土）14時開演予定

[会場] 東京文化会館 小ホール [料金] 4,000円（全席自由）

[曲目（予定）] シューベルト：弦楽三重奏曲 No. 1 変ロ長調 D. 471

ベートーヴェン：弦楽三重奏曲 ニ長調 Op. 8 「セレナーデ」

フォーレ：ピアノ四重奏曲 No. 1 ハ短調 Op. 15

チケットのご予約受付および発売は、夏頃を予定しております。

にってんフォーラム〈第135号〉 2025 春

発行 2025年4月25日〈年4回発行〉

発行人 長岡英司

編集人 立花明彦

発行所 社会福祉法人日本点字図書館

〒169-8586 東京都新宿区高田馬場1-23-4

電話03-3209-0241（代） FAX03-3204-5641

URL <https://www.nittento.or.jp/>

*本誌の記事を撮影したり光学的に読み取ったりして、SNS等で発信したりウェブサイトへ転載することを固くお断りします。

ワクワク! / ドキドキ!



あなたと映画を観たい。

映画みていて!

「スマホで聞く音声ガイド」



NPO メディア・アクセス・サポートセンター

〒106-0041

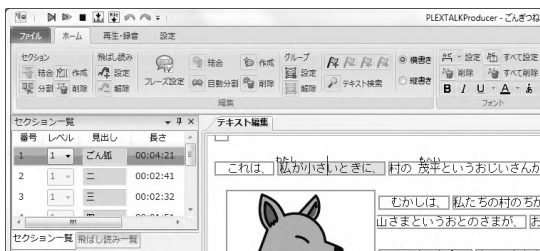
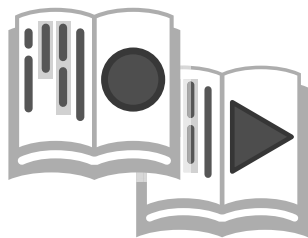
東京都港区麻布台2-3-5 ノアビル1階

MASC

検索



音声 / テキスト / マルチメディア DAISY 製作ツール



PLEXTALK Producer

で作れる 新しい DAISY のカタチ

音声DAISY … 録音図書の標準方式

- ⊗ テキスト文書から音声合成で図書が作れます
- ⊗ CD 書き込み機能で、直ぐに貸し出しできます

テキストDAISY … 音声のない DAISY

- ⊗ データ容量が小さく、受け渡し時間が短縮できます
- ⊗ ルビ振りにも対応し、正しい読みも担保できます

マルチメディアDAISY … 音声とテキストのマルチメディア

- ⊗ ディスレクシアなど合理的配慮の利用対象者が広がります
- ⊗ 既存の音声を使ってマルチメディア化もできます

90日間無料操作体験版は www.plextalk.com からダウンロードできます

サポート OS	Windows 11、Windows 10、Windows 8.1 以降 ※ 各 OS は日本語のみサポート
プロセッサ	Intel Core i3 以上推奨
メモリ	4GB 以上推奨

レイアウトツール 文字化ツール (OCR) でデータ取り込みが楽々 !

PLEXTALK Producer 簡単取り込みセット ¥88,000 (税込)

PLEXTALK Producer 単体 ¥49,500 (税込) 簡単取り込みオプション ¥38,500 (税込)

販売元 :

シナノケンシ株式会社

〒386-0498
長野県上田市上丸子 1078

製品情報、ご注文はホームページ:

www.plextalk.com

※ Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。Intel Coreは米国および/またはその他の国におけるIntel Corporationの商標です。

※ 記載の情報は2022年6月のものです。機能および外観デザインなどは、性能向上その他の理由で、予告なく変更することがあります。PLEXTALK、PLEXTALKロゴはシナノケンシ株式会社の商標です。